ふるさと研究ニュース

2009 年 12 月 第 6 号
所沢市生涯学習推進センター
ふ る さ と 研 究 担 当

「ふるさと研究活動」は、子どもからおとなまで、幅広い世代の市民のみなさんの参加により、ふるさと所沢の自然・歴史・芸術・文化・産業など、様々な分野の資料や情報を集め、調査・研究を深めてゆく活動です。「所沢のことをなんでも知りたい！」方のご参加をお待ちしております。

ふるさと研究講座　入門　所沢市史

～かけ足で学ぶ所沢の歴史～

6 月 7 日にオープンして以来、たくさんの市民の方々に訪れていただいているふるさと研究エリアですが、来られた方々の声として、「所沢の歴史をざっとでよいから教えてほしい」「市史ダイジェスト版だけではよくわからない」といった感想を聞きました。そこでふるさと研究では、今回全 2 回の短期講座「入門　所沢市史」を急きょ企画しました。

昨今は市民大学や高齢者大学の自主活動でも地域の歴史をテーマにした学習が盛んです。また街づくりにも地域の歴史は不可欠な要素となっています。今回の講座は、そうした要望に少しでもお答えしようというものです。

	開 催 日	こ ん な 内 容 を 予 定 し て い ま す
第１回	12月12日(土)	所沢の特徴って何でしょう？ 地形などから所沢の成り立ち、165ヶ所の遺跡から原始・古代の所沢の姿を見ます、いざ鎌倉の武蔵武士、所沢の城館跡はどこにあるの、江戸時代所沢は宿だったというけどどんな宿？
第２回	１月16日(土)	織物の町として発達した所沢、日本最初の飛行場が開設された所沢、川越鉄道など鉄道の敷設、東京へ水を供給する山口貯水池の工事、戦後の住宅開発と都市化、重松流祭り囃子や民俗行事、主要な文化財紹介など

なお、今回受講の募集をしたところ多数の応募がありました。定員より若干増やして申込みを受付けましたが、それでも受講できない方が多く出ましたので、第 2 弾を検討しております。

12月にご覧いただける展示など

場　所	内　容	
常設展示室	所沢の歴史・昔の暮らし・自然など	
メモリアルルーム	並木東小学校の「記憶」	
南棟3階階段脇掲示板 **ミニ写真展**	**小手指地区の移り変わり part2** **山口地区の移り変わり**	12月10日(木)まで 12月11日(金)から
3階中央棟廊下壁 **今月の航空写真**	東所沢和田一丁目付近	12月28日(月)まで

所沢市生涯学習推進センター　ふるさと研究担当
Tel:04-2991-0308　Fax:04-2991-0309　Mail:b29910308@city.tokorozawa.saitama.jp

常設展示室のご案内

その２　常設展示室で年表を配布中

旧石器時代　縄文時代　弥生時代　古墳時代　奈良・平安時代　鎌倉時代　南北朝時代　室町時代　戦国時代　江戸時代　明治時代　大正時代　昭和時代　平成時代

所沢市の歴史ミニミニ年表

【旧石器時代】	2万年～1万3000年前	砂川流域などに石器を用いる人々
【縄文時代】	5000年前頃	大規模な集落が増加、豪華絢爛な土器
【弥生時代】	2300年前頃	米作りなど新しい文化がもたらされる
【古墳時代】	６世紀後半～７世紀初	在地の有力者らが開発に励む
【奈良時代】	神護景雲２（768）	入間郡の物部直広成ら６人が入間宿禰の姓を賜る
【平安時代】	保元元年（1156）	保元の乱。村山党の山口六郎家継ら源義朝に従う
【鎌倉時代】	元弘３年（1333）	新田義貞が倒幕の旗上げ。小手指ヶ原などで幕府軍と戦う
【南北朝時代】	正平７年（1352）	武蔵野合戦。新田義興･義宗、足利氏と小手指ヶ原等で戦う
【室町時代】	応永４年（1397）	鎌倉公方足利氏満、北野社に社領を寄進する
【戦国時代】	天文15年（1546）	河越夜戦。上杉憲政は北条氏康に敗れ上州に逃れる
【江戸時代】	元禄７年（1694）	川越城主となった柳沢吉保が三富開発に着手する
【明治時代】	明治44年（1911）	所沢飛行場が開設され、徳川大尉らの初飛行に賑わう
【大正時代】	大正11年（1922）	所沢織物同業組合事務所が完成する
【昭和時代】	昭和25年（1950）	市制が施行される
【平成時代】	平成21年（2009）	所沢市生涯学習推進センターがオープンする

※もっとくわしい年表は常設展示室にご用意しています。

書き間違い？いいえ違います

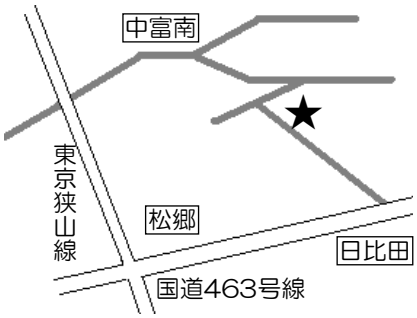
ふるさと研究市民トピック vol.6

「本江」「上洗井」「正楽寺」「荒畑」「麹谷」。所沢の地理に詳しい人なら、すぐにおやっ？と思われることでしょう。「この字、間違ってます」と指摘をされるかもしれません。ところがこれらはすべて、市内に残る石造物に地元の人々が彫った自分たちの村の名前なのです。ご想像どおり、それぞれ柳瀬地区の「本郷」、小手指地区の「上新井」、山口地区の「勝楽寺」、吾妻地区の「荒幡」、三ヶ島地区の「糀谷」を指しています。

実は、比較的最近まで、少なくとも明治時代ごろまでは、地名や人名など固有名詞の表記は今ほど厳密ではなかったようです。同じ音（おん）や似た読みであれば、たとえ人名でも「二」「次」「治」など、異なる漢字を使う例がまま見られます。同じように、村の名前を様々に表記することも決して珍しくない話なのです。

きわめつけは「蛇田村」と彫られた文政 7 年（1824）の地蔵菩薩像です。「蛇田（へびた）」とは柳瀬地区の「日比田（ひびた）」のことで、ここまで来ると、同じ音と言うよりイ行の発音とエ行の発音が被る当時の方言を彷彿とさせます。

この地蔵菩薩は、日比田の集落の北寄り、南永井との境に近い共同墓地（右図★）に立っています。歴史の面白い証人です。



所沢市生涯学習推進センター　ふるさと研究担当
Tel:04-2991-0308　Fax:04-2991-0309　Mail:b29910308@city.tokorozawa.saitama.jp